

算数科学習指導案

1. 単元名

4年「式と計算」 5年「分数のたし算とひき算」 6年「比」

2. 単元について

【4年「式と計算」】

本単元のねらいは、やや複雑な場面の数量の関係をよみとり1つの式に表すことと、その式の計算の手順を理解させ、計算ができることである。その中で()を用いた式や四則の混合した式を立てることを通してそのよさと計算の順序を理解させていきたい。

計算を正しく行うとともに、問題場面を読み取り、式の意味を理解したり式の立て方を考えたりする学習を通して、それらの考えを生活の中で使う力を育てていきたい。

【5年「分数のたし算とひき算」】

本単元では、異分母分数の大小比較や加減の計算のしかたを学習する。これらを理解するためには、分数の相等や大小についての考え方をもとにしなければいけない。

3・4年生の分数の既習事項を再度確認しながら、分数についての理解を深め、約分や通分の意味と方法を理解し、異分母分数の加減の計算を確実にできるようにしていきたい。

【6年「比」】

5年生の3学期に割合の意味と表し方を学習し、一つの数量を基準にして「aはbの3倍」、「aはbの40%」など、割合を1つの数によって表す方法を学習してきた。6年生のこの単元では、aとbの割合について「2:3」と表す比の表し方を学習する。まず、できるだけ具体的な場面を通して、比の意味と表し方について理解させたい。そして、比の値、等しい比、比の性質、比を簡単にするなどの意味や求め方を理解させ、比の考え方を使って具体的な事象に適用し、問題を解決できるようにしていきたい。

3. 児童の実態 (ア：教科の内容に関すること イ：特性に関すること)

	実 態	付けたい力	指導の工夫
A 4 年	ア. ()を用いた式や四則の混合の式の計算の仕方を理解しているが、文章題を読んで立式することが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を読んで1つの式に表すことができる。 計算の順序を考えて正しく計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や操作に結び付けやすい買い物場面の問題を用意する。 最初に計算するところから、番号をうつ。
	イ. 発問の意味が分からなかったり、自分が出した答えの間違いを指摘されたりするとパニックになる。	<ul style="list-style-type: none"> 分からないことがあった時に泣かずに聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない時は聞くように指示を書いておく。 苦手な問題を用意し、自分から聞くことができる場面をつくる。
B 5 年	ア. 「分数のたし算とひき算」の計算は、約分のし忘れがあり、正確にできないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> 約分を正しく行い、分数の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 約分することを忘れていたら声をかけ、約分をするところを示すが、自分で気付くことができるよう、計算のあとを残しておくよう指示する。
	イ. 新しいことや見通しがもてないことへの不安が大きい。 ・音への過敏性があり、集中を持続させることが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 課題に集中して最後まで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 確実にできる問題から取り組むようにする。 集中して取り組めるよう、聴覚刺激を統制する。

5 6 年	ア. 最小公倍数, 最大公約数の理解が十分でないため, 通分に時間がかかる。	・異分母の加減法の仕方を理解し, 正しくできる。	・最小公倍数・最大公約数の算出の仕方が確認できるよう, ヒントカードを用意する。
	イ. まちがえると不安定になり, そこから集中して取り組むことが難しくなる。	・分からないところを自分で聞いて解決することができる。	・確実にできる問題から取り組めるようにする。相談員を近くに配置し, いつでも聞くことができるようにする。
D 6 年	ア. 等しい比を求めたり, 比を簡単にしたりすることはできるが, 比を使って問題を解決することは, は難しい。	・比を使った問題の解き方を理解し, 解くことができる。	・文章問題が理解できるよう, 線分図などの視覚資料を用意する。
	イ. 言葉の指示を理解することが難しく, 取り組みに時間がかかる。	・指示を聞いて理解して取り組むことができる。	・一指示は簡潔にして, 一つ一つ確認しながら出す。
E 6 年	ア. 等しい比を求めたり, 比を簡単にすることができたり, 比を使って問題を解決することができる。	・文章題を読んで等しい比を求めたり, 比を簡単にしたりすることができる。	・簡単な問題の解き方を使って解決できるような段階を踏んだ問題を用意する。
	イ. 理解力があるが, 欠席が多いため, 学習の定着が難しい。	・自分で手がかりを見つけ, 問題を解いていくことができる。	・既習内容を想起できるよう, 問題解決の手順や方法を提示する。
F 6 年	ア. 等しい比を求めたり, 比を簡単にすることができるが, 比を使って問題を解決することは, 文章が理解できれば, 自分で解くことができる。	ア. 文章題を正しく読んで等しい比を求めたり, 比を簡単にしたりすることができる。	・問題文の意味を図や絵などで示し, イメージができるようにする。
	イ. 問題を写し間違えたり, 自分の書いた数字を読み間違えたりして, まちがえることがある。 ・他の児童の様子に気を取られ, 集中して取り組むことが難しい。	・問題の読み間違い, 写し間違いがないよう, 自分で気を付けて読みだり書いたりできるようにする。	・文章題を正しく読むことができるよう, ふりがなをつけたり, 分ち書きにしたりする。 ・問題文をノートの上に置き, 対比させながら正しく書くことができるようにする。
G 6 年	ア. 等しい比を求めたり, 比を簡単にすることができたり, 比を使って問題を解決することができる。	・文章題を読んで等しい比を求めたり, 比を簡単にしたりすることができる。	・問題を解く前にどのように説くとよいか見通しをもたせ, 手取り組むことができるようにする。
	イ. 自分がこれでよいと思ったことを訂正されることに抵抗がある。	・他の考え方や方法もあることを知り, 受け入れることができる。	・課題解決のための選択肢をいくつか用意し, 自分で選択して取り組めるようにする。

4. 単元の目標

4年 () を用いた式や四則混合式の意味, 計算順序を理解し, 問題を1つの式に表して計算することができる。

5年 異分母分数の加法及び減法の計算のしかたを考え, 正しく計算ができる。

6年 比の値, 等しい比, 比を簡単にするなどの意味や求め方を理解し, 比の考え方を使って, 問題を解決することができる。

5. 単元指導計画（6年生） 抽出児（D児，G児）（全9時間）

単元の目標

	観 点	目 標
6年	算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りから，比を見つけようとしている。 2つの数量の割合を簡単に表せる比のよさに気づき，それをうまいようとしている。
	数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 比の考え方を使って，問題を解決することができる。
	数量や図形についての技能	<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の割合を比で表したり，等しい比を見つけ，比を簡単にすることができる。
	数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 比の値，等しい比，比を簡単にするなどの意味や求め方を理解することができる。

単元指導計画

	時	主な学習活動	個別の目標	評価規準
1 比と比の値	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 分量を変えて作ったカルピスの中で同じ味になるのはどれか考える。 カルピスの素と水の割合の表し方や，比の用語を知る。 	<p>D：比の意味と表し方がわかる。</p> <p>G：同じ味になると思うわけを比を使って話すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の割合を○：△という比の形で表すことができる。 <p>【知識・理解】</p>
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> カルピスの素と水の量の割合を比で表す。 4：6や8：12のカルピスは大きさに替えると比はどうなるか考える。 	<p>D：4：6の比を2：□にしたときの□の値が分かる。</p> <p>G：いろいろな比の表し方のもとになるものがわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何を1とみるかによって，2：3や4：6などいろいろな表し方があることが分かる。 <p>【知識・理解】</p>
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> カルピスの素の量は水の量の何倍になっているか考える。 比の値の用語と意味を知る。 比の値の表し方を知る。 	<p>D：比の値の求め方が分かる。</p> <p>G：比の表し方を基にして割合と比の値を関連付けて理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○：△の比の値は，$\text{○} \div \text{△}$で求めることが分かり，この比の値が等しい時に，比は等しいということが分かる。 <p>【知識・理解】</p>
2 等しい比	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 等しい2つの比2：3=4：6の関係について考える。 比を簡単にするよさを理解し，用語を知る。 	<p>D：等しい比の性質を利用して，できるだけ小さな整数の比にすることができる。</p> <p>G：2：3=4：6がなぜ等しい比になるのか自分の考えを発表できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○：△の○と△に同じ数をかけても，○と△を同じ数でわっても比は等しいことを知り，等しい比を作ったり，比を簡単にすることができる。 <p>【知識・理解】【技能】</p>
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 0.6：2.7，4/5：2/3の比をできるだけ小さな整数の比になおす。 	<p>D：小数や分数を整数の比になおすことができる。</p> <p>G：小数は10倍すると整数になること，分数は通分することが分かり，整数の比になおすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小数の比は整数にしてから，分数の比は通分してから，簡単な比にすることが分かり，なおすことができる。 <p>【技能】</p>
3	(1)	<ul style="list-style-type: none"> たてと横の長さの比が3：4である長方形の横の 	<p>D：図を手がかりに，たてと横の長さの関係を知</p>	<ul style="list-style-type: none"> 等しい比の考え方を使って2つの数

比をつかってみよう		長さは96mで、たての長さが何mか求める。	り、比を使って計算ができる。 G：たての長さの求め方は等しい比の考え方を使えばよいことに気づき、計算ができる。	量のうち一方の値が分かっているとき、他方の値を求めることができる。 【技能】 【数学的な考え方】
	(2)	・シール120枚を姉妹で5：3になるように分けた時の妹の枚数を求める。 ・姉の枚数を求める。	D：120枚は8とみることが分かり、比の値を使った考えで妹の枚数を求めることができる。 G：120枚を8とみることを使って妹の枚数を求めることができる。	・比の考えを使って、全体の割合を求め、問題を解決している。 【技能】 【数学的な考え方】
練習	(1)	・教科書の練習問題に取り組む。	D：P103とP102の1,2を自分で解くことができる。 G：p102の3,4の問題を自分で解くことができる。	・等しい比を作ったり、比の値を求めることができる。 また比を簡単にしたり、比の性質を使って、文章問題を解くことができる。 【知識・理解】 【技能】 【数学的な考え方】
	(2) 本時	・「ひみつの手紙（暗号文）」を解くために、比の学習内容を使って、それぞれの問題を解く。	D, G：自分の問題を正しく解くことができ、ひみつの手紙を解読することができる。	

6. 研究に関わって

(1) テーマ

「個々の実態に応じ、出口の姿を明確にした算数の授業をめざして」

(2) 研究内容

①個々の学習状況の把握

・プレテストや評価テストの利用

単元の初めにはプレテストを行い、定着度やつまずきの箇所を把握する。また、授業後に評価テストを行い、定着の状況を把握するとともに、手立ての検討をしている。

・単位時間の学習活動における学習状況の把握

一人一人の考え方や課題解決の仕方について言葉や図などで説明させることで、理解の状況を確認する場を位置づけている。仲間との学び合いでは意見を交流することを通して、仲間との関係づくり、コミュニケーションにおける状況を把握する。

・家庭学習による定着と見届け

その日に学習したことの定着を図るために、算数においては、学習したところやその関連するところを家庭学習とし、定着やつまずきの状況を毎日つかむようにしている。

②個に応じた出口の姿の明確化

子どもたちが主体的に学習を進め、力をつけるために、何をねらいとしてどんな力をつけていけばいいのか、教師自身が単元や一時間の見通しを持った指導を考えていくことが大切である。

学年相当の力をつけ、将来の自立に向かうためにも、7人とも毎時間ごとに出口の姿をはっきりさせて指導をしている。特に、今日は何をどこまで行うのかを明確にすることによって、児童も見通しをもって取り組むことができると考えている。また、算数においては個々に応じた評価問題の問題数や内容を考えることで、子ど

もたち一人一人が「わかった」「できた」という達成感を感じることができると考えている。

③学級集団としての活動の工夫

7人が共通して苦手としていることは、人とのコミュニケーションがうまくいかないことである。そこで、交流学級や集団での生活での学びの手助けとして、まずは、7人という小集団において、教科の時間を利用をしながら、コミュニケーション能力を養うことを考えた。そして、その一つの活動として、子どもたちが楽しめる「ひみつの手紙」を教材として取り入れることを考えた。

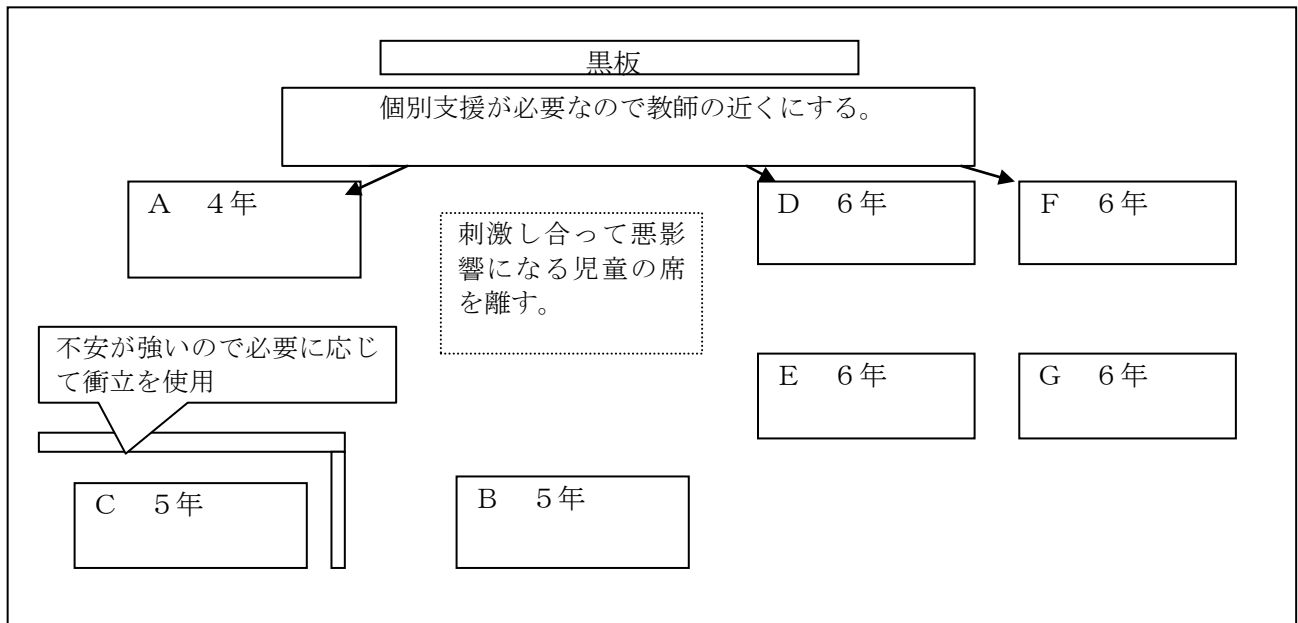
「ひみつの手紙」の時間は、算数の各単元のまとめの時間に位置付けている。1単位時間の前半は、個に応じた練習問題を解き、自分ができるようになったことを確認する時間としている。そして、後半は、練習問題を解くことによって、児童が得ることができた文字をつなぎ合わせて「ひみつの手紙」を解読する。そして手紙の答えを導き出すために、約束にしたがって相談するという共同作業を位置付けている。このように、1単位時間を個に応じた学習をする時間とお互いに関わり合いながら学習する時間の2段階で考え、教科学習の中に自立活動の要素も取り入れて構成している。

7, 本時のねらいと展開

※別紙参照

8, 環境設定図

※ 個々の特性に配慮した机列の工夫をしている。



7. 本時のねらいと展開 (4年 6/6, 5年 11/11, 6年 9/9)

本時のねらい		A (4年)	B (5年)	C (5年)	D (6年)	E (6年)	F (6年)	G (6年)	
個人 の ね らい	・ひみつの手紙(暗号文)を解くために、学習した内容を生かしてそれぞれの問題を正しく解くことができる。	・問題場面を、()を用いた式や四則混合の式に表し、計算順序を守って正しく計算することができる。	・異分母分数の加法、減法、加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。	・自分の問題に集中して全部解くことができる。	・わからないことを自分で聞いて解決することができる。	・比の意味や性質を理解し、比を簡単にしたり比の値を求めることができたり、それらを活用して適用問題を解決することができる。	・自分で手がかりを見つけ、問題を解いていくことができる。	・問題を正しく読み、集中して取り組むことができる。	・間違っていたら自分でやり方を選択し、直すことができる。
		・分からない時に聞くことができる。							
学習活動		・児童の姿 *指導・援助 ※特性に応じた支援							
学 習 過 程	1. 本時の学習内容を確認し、見通しを持つ。 ・それぞれ本時ががんばることを発表する。	計算の順序に気を付けて計算します。	約分を忘れずに確かめて計算します。	通分をまちがえずに計算します。	少数や分数でも比を簡単にします。	文章問題をよく読んで正しく計算します。	落ち着いて問題をよく読んで計算します。	問題をよく読んで正しく計算します。	
	2. 課題を提示する。	課題：ひみつの手紙を読むために、正しく問題を解こう。							
	3. それぞれが自分の問題を解く。 ※7人が正しく計算することによって手紙が解けるように問題を作る。 ※それぞれが自分の問題をやりきらないとひみつの手紙が分からないように、問題番号はバラバラにする。	※問題をどんどん解くことができるので、問題数を多めに用意する。 ※計算の順序で迷った時には、順序が確認できる資料を用意し、自分で見ながらできるようにする。 ※分からない時や間違いを指摘されたときは不安定になるので、様子を見て相談員が声をかけ、困っていることを聞いたり、既習内容を使って正しいやり方を本人が自分で確かめることができるようにする。	※本児が心配になった時に安心して相談ができるよう、相談員が近くで待つ。 ※問題を解いていく際に約分ができるかどうか判断できないことがある。約分ができるかどうかを確かめるポイントを示し、見届ける。 ※間違いがないか確かめるため、必ず計算をノートに残すようにプリントに指示し、さらに相談員に声をかけてもらう。	※不安が強いため、相談員が横で見届け、できているところを認め励ます。 ※問題ができないと先に進めないため始めの2問は通分が簡単な問題にする。 ※どの数字に着目したらよいか分からなくて困っている様子が見られたら、自分から意思表示しやすいように相談員がそばに付き、着目する数字を示す。 ※Bの速さが分かると不安が強くなるので、Bの様子が分からないように間に相談員が入る。	※指示を出す際に聞いているかどうか確認し、指示のあとノートに書いていない様子が見られたら、声をかけ、ノートに書くよう促す。 ※問題をやりきった達成感が味わえるよう、問題数を少なくする。 ※少数や分数において比を簡単にするときの手順が分かるものを近くに置き、自分で確認しながらできるようにする。	※間違いを指摘されると、次に進めないことがあるので、確実にできそうな問題を多く入れる。 ※正しい答えになっているか1問1問たしかめて丸をつけていく。 ※少数や分数において比を簡単にするときの手順が分かることを認め、間違えても解決する方法があること、解決することで心理的安定や達成感が得られることを実感させる。	※問題の写し間違いがないか、とりかかるときの時に声をかける。 ※取り組み始めれば集中できるので1番に声をかけ、ほめる。集中して取り組んでいる時間に頑張っていることを認め、集中できる状態を強化する。 ※文章問題は、読みやすいように分ち書きにする。 ※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。	※問題数を確認し、見通しが持てるように指示をはっきりわかるようにする。 ※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。	
	4. 計算した結果や手紙に入る言葉を書きこんだり発表したりする。 ※もし、自分の問題がやりきれなくても手紙の文が予想できるようにそれぞれの解答場所をバラバラにする。 ※自分の答えが間違っている時は文章がつかない時なので、おかしいと思ったら計算をやりなおすように声をかける。	評価規準 問題場面を1つの四則混合の式に表し、順序を守って計算ができる。	評価規準 異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。	評価規準 異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。	評価規準 小数や分数においても比を簡単にすることができる。	評価規準 比の性質や考え方をもとにして問題を解決することができる。	評価規準 小数や分数においても比を簡単にすることができる。	評価規準 比例配分の文章問題を比の性質を使って解決することができる。	
5. ひみつの手紙の答えを7人で相談し、発表する。 ※手紙の答えがすぐわかるものではなく、7人で相談して答えが出る問題になるようにする。 ※相談は約束に従ってできるようにしておく。	・相談の輪に入り、自分の意見を積極的に言おうとする。 ・計算の順序に気を付けてできました。	・自分の思いをなかなか話せないがみんなの話を聞いて相談しようとする。 ・約分に気をつけてできました。	・相談の輪には入れないがみんなの話は聞いて答えを見つけようとする。 ・通分に気をつけて全部の問題ができました。	・約束にしたがって相談しようとする。 ・少数や分数でも比を簡単にすることができました。	・相談の輪に入れませんが、遅れて自分で調べようとする。 ・文章問題をよく読んで、比の考え方を使って正しく計算できました。	・相談せず自分で手紙の答えを見つけようとする。 ・落ち着いて問題をよく読みました。 ・少数や分数でも比を簡単にすることができました。	・約束にしたがって相談しようとし、勝手なことを言おうとすると注意ができる。 ・問題を読んで比を使ってまちがいがなく計算できました。		
6. ふりかえり	ひみつの手紙 今月の献立の外国料理は韓国料理です。韓国の辛い味噌の名前はなんというでしょう? (答 コチュジャン)								

【ポイント①】(個に応じた指導・援助の工夫)

実態分析に基づき、必要な指導・援助の内容を明確にする。想定されるつまずきについて、学習過程のどの場面でどのように指導するかを明確にする。

【ポイント②】

(学習活動の工夫)

7人の児童が学級集団として仲間を意識して学習ができるよう、以下のような工夫をしている。

- ① 児童が問題を1問解くと、「秘密の手紙」の1文字を獲得することができる。
- ② 児童が全ての問題を解くと、「秘密の手紙」のすべての文字がそろう、手紙の解読ができる。(答えを間違えると手紙が解読できない)
- ③ 「秘密の手紙」に書いてあるクイズを解読し、その答えを皆で考える。

7. 本時のねらいと展開(4年 6/6, 5年 11/11, 6年 9/9)

本時のねらい	A (4年)	B (5年)	C (5年)	D (6年)	E (6年)	F (6年)	G (6年)
個人 の ね ら い	・問題場面を、()を用いた式や四則混合の式に表し、計算順序を守って正しく計算することができる。 ・分からない時に聞くことができる。	・異分母分数の加法、減法、加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。 ・自分の問題に集中して全部解くことができる。	・わからないことを自分で聞いて解決することができる。	・比の意味や性質を理解し、比を簡単にしたり比の値を求めることができたり、それらを活用して適用問題を解決することができる。 ・指示を聞いて学習に取り組むことができる。	・自分で手がかりを見つけ、問題を解いていくことができる。	・問題を正しく読み、集中して取り組むことができる。	・間違っていたら自分でやり方を選択し、直すことができる。
学習活動	・児童の姿 *指導・援助 ※特性に応じた支援						
学習活動	計算の順序に気を付けて計算します。	約分を忘れずに確かめて計算します。	通分をまちがえずに計算します。	小数や分数でも比を簡単にします。	文章問題をよく読んで正しく計算します。	落ち着いて問題をよく読んで計算します。	問題をよく読んで正しく計算します。
課題	ひみつの手紙を読むために、正しく問題を解こう。						
学 習 過 程	<p>1. 本時の学習内容を確認し、見直しを持つ。 ・それぞれ本時ががんばることを発表する。 2. 課題を提示する。 3. それぞれが自分の問題を解く。 ※問題をどんどん解くことができるので、問題数を多めに用意する。 ※7人が正しく計算することによって手紙が解けるように問題を作る。 ※それぞれが自分の問題をやりきらないとひみつの手紙が分からないように、問題番号はバラバラにする。</p> <p>4. 計算した結果や手紙に入る言葉を書きこんだり発表したりする。 ※もし、自分の問題がやりきれなくても手紙の文が予想できるようにそれぞれの解答場所をバラバラにする。 ※自分の答えが間違っている時は文章がつかない時なので、おかしかったら計算をやりなおすように声をかける。</p> <p>5. ひみつの手紙の答えを7人で相談し発表する。 ※手紙の答えがすぐわかるものではなく、7人で相談して答えが出る問題になるようにする。 ※相談は約束に従ってできるようにしておく。</p> <p>6. ふりかえり</p>	<p>※問題を解いていく際に約分ができるかどうか判断できないことがある。約分ができるかどうかを確認するポイントを示し、見届ける。 ※間違いがないか確かめるため、必ず計算をノートに残すようにプリントに指示し、さらに相談員に声をかけてもらう。</p> <p>※計算の順序で迷った時には、順序が確認できる資料を用意し、自分で見ながらできるようにする。 ※分からない時や間違いを指摘されたときは不安定になるので、様子を見て相談員が声をかけ、困っていることを聞いたり、既習内容を使って正しいやり方を本人が自分で確かめることができるようにする。</p> <p>※問題が得意な児童が安心して相談できるよう、相談員が近くで待つ。</p> <p>※不安が強いため、相談員が横で見届け、できているところを認め励ます。</p> <p>※問題ができないと先に進めなため始めの2問は通分が簡単な問題にする。 ※どの数字に着目したらよいか分からないと困っている様子が見られたら、自分から意思表示しやすいように相談員がそばに付き、着目する数字を示す。 ※Bの速さが分かることと不安が強くなるので、Bの様子が分からないように間に相談員が入る。</p> <p>※指示を出す際に聞いているかどうか確認し、指示のあとノードに書いていない様子が見られたら、声をかけ、ノードに書くよう促す。 ※問題をやりきった達成感が味わえるよう、問題数を少なくする。 ※正しい答えになっているか1問1問たしかめて丸をつけていく。 ※少数や分数において比を簡単にするときの手順が分かるものを近くに置き、自分で確認しながらできるようにする。 ※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。 ※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題の写し間違いがないか、とりかかるときに声をかける。 ※取り組み始めれば集中できるので1番に声をかけ、ほめる。集中して取り組んでいる時間に頑張っていることを認め、集中できる状態を強化する。 ※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。 ※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題数を確認し、見通しが持てるように指示をはっきりわかるようにする。 ※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数提示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。</p>	<p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※少数や分数においても比を簡単にすることができます。</p> <p>※文章問題をよく読んで正しく計算します。</p> <p>※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。</p> <p>※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数提示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。</p>	<p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※少数や分数においても比を簡単にすることができます。</p> <p>※文章問題をよく読んで正しく計算します。</p> <p>※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。</p> <p>※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数提示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。</p>	<p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※少数や分数においても比を簡単にすることができます。</p> <p>※文章問題をよく読んで正しく計算します。</p> <p>※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。</p> <p>※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数提示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。</p>	<p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※異分母分数の加減混合計算を通分、約分を使って正しくできる。</p> <p>※少数や分数においても比を簡単にすることができます。</p> <p>※文章問題をよく読んで正しく計算します。</p> <p>※文章問題は、読みやすいように分かち書きにする。</p> <p>※間違えたところを自分でチェックして気付くことができるよう、ノートで確認させる。</p> <p>※問題の意味を正しく読み取っているかを把握するため、「分かっていること」「求めること」について問い返し、確認する。 ※間違いがあった時に、解決方法を複数提示し、自分でできるやり方で直すことができるようにする。</p>	
ひみつの手紙	今月の献立の外国料理は韓国料理です。韓国の辛い味噌の名前はなんというでしょう？ (答 コチュジャン)						
個人 の ね ら い	・相談の輪に入り、自分の意見を積極的に言おうとする。 ・計算の順序に気を付けてできました。	・自分の思いをなかなか話せないがみんなの話を聞いて相談しようとする。 ・約分に気を付けてできました。	・相談の輪には入れないがみんなの話は聞いて答えを見つけようとする。 ・通分に気を付けて全部の問題できました。	・約束にしたがって相談しようとする。 ・少数や分数でも比を簡単にすることができました。	・相談の輪に入れないが、遅れて自分で調べようとする。 ・文章問題をよく読んで、比の考え方をを使って正しく計算できました。	・相談せず自分で手紙の答えを見つけようとする。 ・落ち着いて問題をよく読みました。 ・少数や分数でも比を簡単にすることができました。	・約束にしたがって相談しようとし、勝手なことを言おうとすると注意ができる。 ・問題を読んで比を使ってまちがいがなく計算できました。

【ポイント③】(個の学びと仲間とのかかわりの両面を大切にした指導)

1 単位時間を個に応じた指導をする時間と、互いにかかわり合いながら学習する時間の2段階で考え、教科学習の中に個の障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するための自立活動の要素を取り入れて構成する。

